亀岡大郎のトップ対談

経済評論家 亀岡大郎氏

■プロフィール
★大正15年京城生まれ。新大阪新聞経済部長を経て経済評論家となる。文芸春秋、サンデー毎日など一流誌で、経済・財界問題を中心に、精力的な活動を続ける一方で「自動車戦争」「ゲリラ商法」「IBMの人事管理」などベストセラー多数。

東京・神奈川に6拠点

農家の長男から地主の相続専門家に

ランドマーク税理士法人グループ（神奈川県横浜市）
清田 幸弘代表（53）

プロフィール
1962年1月1日、神奈川県横浜市で農家の長男として生まれる。明治大学卒業後、横浜農協に9年間勤務。資産税専門の会計事務所に勤務後、1997年に独立。地主向け相続対策コンサルティングだけでなく、同業者や資産家向けに仕事をするビジネスマンに向けた教育事業にも進出。丸の内相続大学校主宰。

横浜市緑区台村町の一角にかつて3町歩（9万㎡）にも及ぶ土地で農業を営む家の長男として生まれたのが、ランドマーク税理士法人を率いる清田幸弘税理士だ。事業の根幹にあるのは父親とともに、清田家の資産の見直しに奔走した経験だそうだ。

農業と不動産から都市農家をサポート

亀岡　最近は士業にも商売上手な人が多いと感じます。かつてタレント弁護士の元祖として、国会議員やテレビでも活躍した円山雅也弁護士と親交がありましたが、あんな人は珍しいものと思っていました。

清田　世の中を見ていると弁護士から有名になる方が多いですね。

亀岡　ネットで弁護士探しをする会社を上場させた弁護士がいます。

清田　法律事務所オーセンスの元榮太一郎さんですね。

亀岡　ご存じですか。

清田　私が主宰する丸の内相続大学校という相続の専門家を養成するビジネススクールでも講師をしていただきました。

亀岡　いっそ、ネットで税理士探しをする会社をつくられたらどうですか。

清田　面白いとは思うのですが、既に元榮先生がやられています。

亀岡　そうですか。彼も抜け目がないですね。とはいえ、相続ビジネスは強い追い風がふいているでしょう。

清田　おかげさまで業績は順調です。前期は売り上げが前年対比で125％増の9億7000万円でした。今期は13億円を目指しています。

亀岡　ここ数年、経済誌を開けば相続の2文字を見ない日はありません。

清田　相続ブームなんて言葉も耳にしますが、税理士的な見地から言えば、相続と関係ないものも多々見受けられるのは事実です。一方で、私たちの仕事につながっている部分もあり、感謝しなければとも思います。

亀岡　ところで社名のランドマークは何を由来にされているのですか。

清田　横浜の桜木町にあるランドマークタワーから取ったものです。タワーに事務所を開設した時にこの名前に変えました。

亀岡　出身も横浜ですか。

清田　横浜からJR横浜線に20分乗ったところに、中山という駅があります。そこからさらに15分ほど歩いた緑区台村町という地区が、私の生まれ育った場所です。事務所の創業地でもあります。20年前は駅前と幹線道路を除けば、小高い山に囲まれた土地に田畑が広がる地区でしたが、最近は住宅開発が進みました。

亀岡　それにしても、農家出身の税理士という肩書きは、仕事がしやすいでしょう。

清田　自分の経験で話ができるので、信頼していただきやすいと思っています。

亀岡　名刺代わりの肩書きがつくと、個人も会社も名前は広がりやすくなります。名前を売ることは商売で一番大切なことです。今でも畑に出ることはあるのですか。

清田　さすがに機会は減りました。一番最近農作業をしたのは去年のことです。父が夏野菜を作っていますが、今は趣味の範囲です。とはいえ、税理士の専門学校に通っていた頃は、農業で生計を立てることも考えていたのです。

亀岡　結果はどうでしたか。

清田　全くうまくいきませんでした。両親と私で農業にあたったのですが、年収にして150万円程度にしかならなかったのです。都市農家の農業経営の苦しさを身を以て知ることになりました。

亀岡　税理士になることを決めたのはいつ頃ですか。

清田　35歳で税理士資格を取得しました。

清田　都市農家にとって、賃貸住宅に代表される土地活用と無縁でいることは難しいのが実態です。かくいう私も家主の一人です。

亀岡　そうでしたか。

清田　農協を辞めて、税理士事務所を開設するまでは専門学校に通っていた時間も長かったので、賃貸住宅の家賃収入で生計を立てていた時期もあります。

亀岡　賃貸経営はうまくいっていますか。

清田　おかげさまで満室経営オーナーの一人です。

亀岡　賃貸新聞の記者が取材に行かなければなりませんね。秘訣は何でしょう。

清田　実は、所有物件の4分の1程度を事務所の職員が社宅としているのですが。

亀岡　満室経営の秘訣は従業員雇用にあり、ということですか。

清田　実際は、ほとんど妻に任せっきりではありますが。

亀岡　そうすると、相続対策は万全ですね。

清田　仕事上、そうでなくてはならないのですが、一方でそう簡単に事が運ばないのも相続対策の難しいところです。節税だけが相続対策の目的ではなく、そこに関係する人の思いが絡み合うものなので、杓子定規には進められません。私の家で言えば、長い間親族の間で相談を重ねて、ようやく最近落ちついてきた、というところです。

賃貸住宅も所有 満室経営継続中

亀岡　賃貸住宅経営は、生命保険と並ぶ相続対策の本丸です。多くの地主が経営に関心がないまま相続対策として賃貸住宅を建てて家主となり、この市場は拡大してきたので、30歳の頃でしょうか。

亀岡　それまでは何をされていたのですか。

清田　農協に9年間勤務していました。農家の事業経営サポートや、確定申告準備といったことをやっていたので、今と地続きの仕事です。

亀岡　一貫して農家のための仕事をしてきたのですね。

清田　そうですね。ランドマーク税理士法人という社名にする前は、アグリコンサルティングという名前でやっていたくらいです。

亀岡　賃貸住宅経営は、生命保険と並ぶ相続対策の本丸です。多くの地主が経営に関心がないまま相続対策として賃貸住宅を建てて家主となり、この市場は拡大してきているので、喜ばれていると思って使っています。これが最大の空室対策です。職場まで徒歩10分圏内で、家賃の半分は会社が補助しています。これが最大の空室対策です。職場まで徒歩10分圏内で、家賃の半分は会社が補助しているので、喜ばれていると思って談しても同じ答えが返ってくると思っている人が世の中にはまだたくさんいるので。現在、東京・神奈川の6拠点で行っていますが、1都3県に拡大していきたいと考えています。

◀事業拡大におけるスピードの重要性について話す

好調な新卒採用 来春は17人が入社

亀岡　清田代表は税理士よりも事業家という印象を受けます。

清田　そう思っていただいて構いません。相続コンサルティングビジネスの頂点を目指しています。そのために相続の専門家として、認知を高めなければならないと思っています。税理士であれば誰に相

亀岡　会社が勢いよく拡大してくると、組織づくりに重点をおく必要が出てきます。

清田　採用と教育による人材の確保が最重要課題ですね。

亀岡　なかなか人が採用できない時代で、どの企業も苦労しているようですが。

清田　ありがたいことに、来春17人の新卒学生が新入社員として入社してきます。今年は非常に良い採用を行うことができました。

亀岡　何が要因ですか。

清田　一昨年に、東京駅の丸の内口を出た目の前のビルに新しい拠点を設けました。これは社員のモチベーションを上げると同時に、企業ブランドを確立することにも繋がりました。結果的に採用にも良い影響を及ぼしたと思っています。

亀岡　誰もが認める一等地に事務所を構えることは、関わる人全てに安心感を与えます。実は新聞社にも同じことが言えるのですが。それにしても元気がいいですね。若い社員を育てながら、勢いに乗じて一気に駆け上がらなければなりません。企業も人も成長するときは2段ロケットに火をつけなければなりません。一度何かを達成した時こそ、もう一段階上に進むのです。

清田　勢いを止めるなということですね。肝に銘じます。

会社概要

会社名：ランドマーク税理士法人グループ
代表者：清田　幸弘
所在地：神奈川県横浜市西区みなとみらい2―2―1
横浜ランドマークタワー37階
業務内容：相続・事業承継対策、相続税申告、資産税コンサルティング、決算・確定申告支援
グループ会社：ランドマークエディユケーション、ランドマークコンサルティング、（一社）相続マイスター協会、ランドマーク行政書士法人
従業員数：105名